

# 世界冬の都市市長会とは

「世界冬の都市市長会」は、「冬は資源であり、財産である」というスローガンのもと、世界中の冬の都市が集まり、冬の技術や経験、取り組みを学び合うためのネットワークです。かつては、北方都市会議と呼ばれ、1981年に札幌市が提唱し、翌年、第1回の市長会議を開催したのが始まりです。2004年には、さらなる発展を目指し、名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。

冬の都市の市長が一堂に会し、快適な冬のまちづくりに有益な情報や技術を共有しながら、地球環境問題のように世界が協力しなければならない課題にも、国際社会の一員として取り組んでいます。積雪寒冷という同じ環境にある海外都市とのこうした交流が、それぞれの都市にとって有形・無形の財産を築くことにつながっています。



市長会議で取組事例を発表する上田文雄会長（札幌市長）

## 冬の都市とは

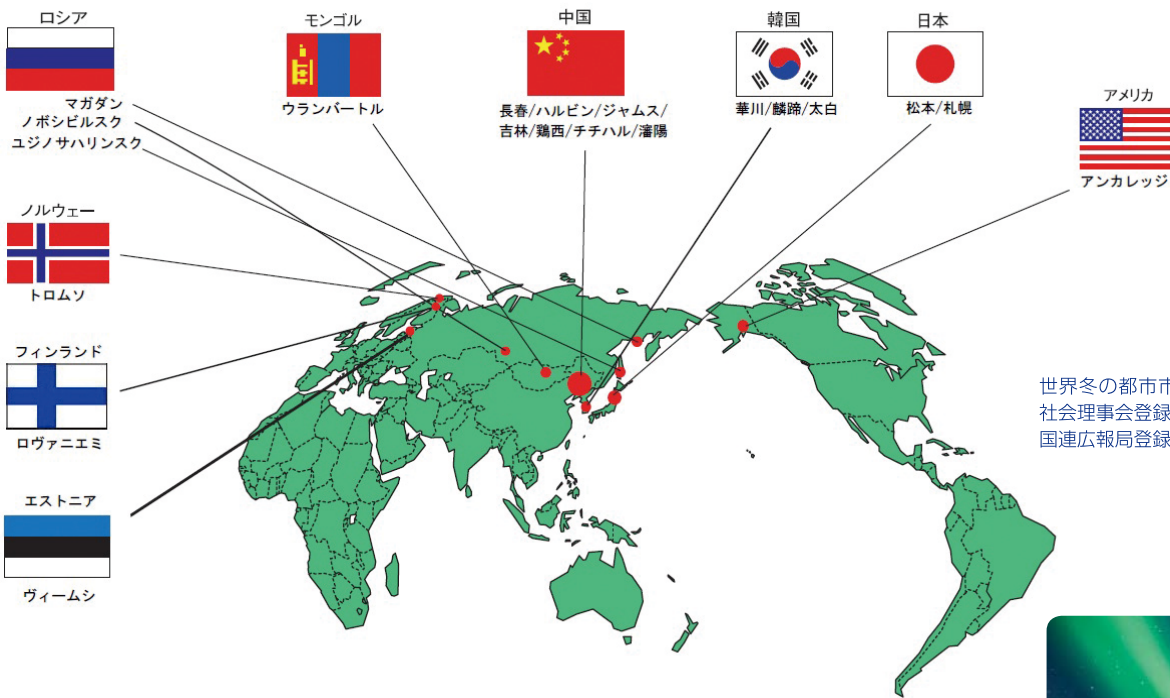
積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

積雪の基準 …… 1年間のうちで積雪量の最大値が概ね20cm（8インチ）以上となること。

寒冷の基準 …… 1年間のうちで最も寒い月の平均気温がおおむね摂氏0度（華氏32度）以下となること。

## 会員都市

9カ国 20都市（2015年2月現在）



世界冬の都市市長会は、国連経済社会理事会登録NGO（ロスター）、国連広報局登録NGOです。



松本城



わかさぎ祭り(麟蹄)



ロヴァニエミのオーロラ

# 主な活動内容

## 市長会議

世界冬の都市市長会の主要事業であり、2年に1度開催されます。

これまで16回の会議が開催されており、地球環境問題、都市計画、冬の都市交通、除排雪などについて、市長同士が先駆都市の知恵と経験を共有し、まちづくりへのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学ぶことができました。

市長会議は、市長自らが各都市の取組事例を紹介し、都市経営の最高責任者である市長同士が膝を交えて率直に意見交換を行うユニークかつ格好の機会となっています。



華川市長会議の様子

## 小委員会

冬の都市の実務者・技術者が先進事例などを調査・研究する機関です。

これまでに、「観光促進小委員会」、「雪対策小委員会」、「自然災害対策小委員会」、「持続可能な冬の都市づくり小委員会」、「冬の都市環境問題小委員会」、「環境保全小委員会」等が設置され、それぞれのテーマに基づいて成果をまとめています。



小委員会報告書

## 実務者会議

会員都市の行政実務者が集まり、次回市長会議の開催計画やテーマ、市長会の運営などについて協議する会議です。会議は原則2年に1度、事務局都市で開催されることになっています。

## 会員になるには

- 入会手続き**：会員になるには、入会を希望する都市の市長が会長に入会を申請します。その後、役員会に諮られ、入会が決定されます。
- 会費**：会員都市は、都市人口と国民1人あたりの国内総生産額（GDP）を基準として算出される年会費を払わなければなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。
- 会員になると**：会員になると、市長会総会及び市長会議に出席して発言し、表決に加わることができます。また、市長会議の開催都市に立候補することができます。さらに、会員間に形成されているネットワークを活用してさまざまな分野で個別に交流をすることができます。
- 申し込み先**：世界冬の都市市長会事務局

最新の会議内容やこれまでの成果についての詳しい情報を、世界冬の都市市長会のウェブページに掲載していますので、ぜひご覧ください。  
(<http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/>)  
世界冬の都市市長会は、快適な冬のまちづくりについて、ともに考える会員都市を募集しています。入会の詳しい要件などについては、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。